

はじめに

日ごろ着るものには無関心にみえるシニア男性でも、8割近い人が「気に入った服装で出かけるときは気分がさわやか」なのだそうです（本文参照）。「背筋が伸びるような気がする」「楽しくなる」「得意な気分になる」との回答もあります。ほぼ40年間、まるで制服のように背広を着つづけた男性たちが、職業生活の第一線を離れてからの自由な日々をどんな装いで過ごすかは、ご本人の気の持ち方にとっても、いい姿勢を保つためにも大事ですが、共に暮らす家族や身近な友人たちにも、違った印象と刺激を与えます。かりにしゃれた服装でさっそうと街を歩けば、背筋もおのずからしゃんと伸びて、足どりも軽くなり、街全体が活気を帯びるかもしれません。そうなれば21世紀に高齢者比率が25%を超える時代がきて、地域社会の風景は明るさを失わないでしょう。

本研究では平均約20年に及ぶシニア期を元気で明るく過ごすために、多角的かつ詳細に実態に迫り、それにもとづいて実行可能な「服装の改革」を描いてみました。ほんのわずかな勇気と、ちょっとした選択の違いで、見た目がぐんとスマートになり、ついでの行動的になれたとしたら、心身の健康にもプラスでしょうし、人生の後半期に向けてまさに貴重な質的变化を組み入れたことにもなります。

まず①実態調査として、家族を含めたアンケート、街角ウォッチング、姿勢観察など、次に②市場調査で販売店での商品の品ぞろえ、モニターによる試買調査、通信販売のカatalogによるシニア向け商品構成の検討など、③着用テストではシニア男性有志のご協力を得て体型や姿勢をカバーするデザイン、ご本人の使用意欲、女性モニターによる観察・印象など、三つの角度から検討を行い、それらをもとに商品の供給者・シニア男性の双方に、今後へ向けて具体的な改善を提案しています。

建前と本音にはむろん隔たりがありますが、なかには身近に相談する人がいないため、仕方なく手を抜いている方もおられました。こうした方々にぜひ新しい服装プランにチャレンジしていただきたいと思います。気分が明るくなるだけでも大きなプラスといえるでしょう。同時にこうしたシニアの選択が、市場を通して豊かなシニアファッションの開発・普及へと向かう一助になればまことに幸いです。

おわりにこの研究に快くご協力いただいたシニア男性有志の方々、適切なお助言やご意見をいただいた専門家の方々、そして研究に支援して下さった姿勢研究所と地域社会研究所に、心からお礼を申し上げます。

1996年 8月

商品科学研究所所長 藤原 房子

